



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録

対象：高校生招へい（カナダ）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、カナダから高校生及び引率者 41 名が 2019 年 1 月 29 日～2 月 5 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

カナダ：41 名

（内訳）

グループ A（23 名）：Henry James Cambie Secondary School
Vincent Massey Secondary School

グループ B（18 名）：Miles Macdonell Collegiate
University of Toronto Schools

【訪問地】

東京都、愛知県、三重県

2. 日程

1/29(火)	【来日】
1/30(水)	【オリエンテーション】 【日本理解講義】 【視察】江戸東京博物館・浅草寺・仲見世
1/31(木)	東京都から愛知県へ移動 【学校交流】東邦高等学校
2/1(金)	【文化体験】名古屋城 【視察】トヨタ自動車株式会社 元町工場 愛知県から三重県へ移動 【ホームステイ対面式】
2/2(土)	【ホームステイ】三重県大紀町
2/3(日)	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備）】

2/4(月)	三重県から東京都へ移動 【視察】ホンダウェルカムプラザ青山 【成果報告会】
2/5(火)	【視察】明治神宮・原宿・TEPIA 先端技術館 【離日】

3. プログラム記録写真



1/30 【日本理解講義】



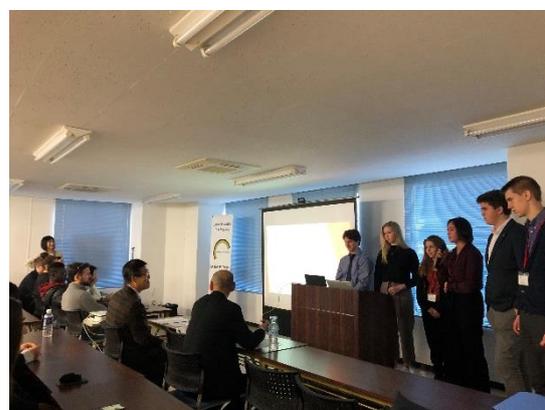
1/31 【学校交流】東邦高等学校



2/1 【視察】トヨタ自動車株式会社
元町工場



2/4 【視察】ホンダウェルカムプラザ
青山



2/4 【成果報告会】



2/5 【視察】TEPIA 先端技術館

4. 参加者の感想（抜粋）

◆カナダ、高校生（グループA）

学校交流は素晴らしかったです。特に剣道は面白かったですし、学校の生徒達と直接話げできたのは大変に良い経験となりました。共に会話しながら日本人について多くを学びましたし、日本語は基礎的なレベルですが、私も使って話してみました。トヨタ元町工場視察も大変に興味深かったです。「自動化」について学び、必要以上のものは作らないという方式も知りました。オート化が進むと製造が拡大するので、結局雇用も増大するという話は大変興味深かったです。ホームステイ（ファームステイ）は今回のプログラムの中でも特に気に入りました。あんなに古くて伝統的な家に泊まれるなんて思ってもみなかったですし、色々な種類の日本食についても知ることができとても楽しかったです。

◆カナダ、高校生（グループA）

「日本理解講義」で私が最も強く印象に残ったのは、日本がいかに宗教と強く結びついてるかということです。祈りや参拝は日本では至極普通で当たり前のことなのです。皆がそれぞれ違ったことで祈りを捧げ、神道と仏教が混合宗教として日本人の心に深く根付いていることは大変に興味深いことです。学校訪問で感動したのは、清掃業者はおらず自分たちで教室をきれいにしなくてはならないということです。カナダとはまったく違う行いであり非常に興味を惹かれましたが、同時に責任を持つという日本の教育の在り方に感銘を受けました。トヨタ工場で見えた自動化やジャストインタイム方式など労働力効率化のための完璧なまでの定義付けやモットーにも感服しました。ホームステイは全てが本当に素晴らしかったです。温泉・畳・餅つき・書道など日本の素晴らしい文化をじかに教えてもらえる最高の経験でした。その日だけは日本人の一員になれた気がしました。

◆カナダ、高校生（グループB）

プログラム説明を聞いたとき、スケジュールに掲載された私達が参加するすべての活動に興味を持ちました。東邦高校との交流はとても楽しいものでした。日本の高校生たちと話し、いろいろな話を共有しました。友達になれたので、今でもコミュニケーションをとっています。政府機関に行くことはできませんでしたが、もし行けたら、それも素晴らしい経験だったろうと思います。ホームステイは本当に素敵な経験でした。ホストファミリーとその人柄が好きになりました。とても親切にしてくれて、忘れることのできない一生に一度の経験になりました。

◆カナダ、高校生（グループB）

学校交流については、日本の高校生がカナダの高校生についてどんなことを知りたいと思ったのか、どんなことをすでに知っているのかを理解することは興味深いものでした。企業訪問では、組み立てラインの効率が見学できたことが注目すべき驚きとなりました。ホームステイは今まで自分が経験したものの中でも最も良いものでした。日本の日々の生活や文化について学ぶことを楽しみました。他では経験することのできないような興味深い活動を沢山経験しました。ありがとうございました。

5. 受入れ側の感想

◆ホストファミリー

日本のことをとても勉強していて、色々な体験（温泉・折り紙・書道など）を喜んでくだ

さって嬉しく思いました。今回、各々のご家族からのメッセージとお写真をいただき感謝しております。日本の「お母さん」として3人の娘さん達と過ごせた日々は、貴重で大切な思い出となりました。何でもはっきりと意思表示をしてくださることも、とても良いと思いました。

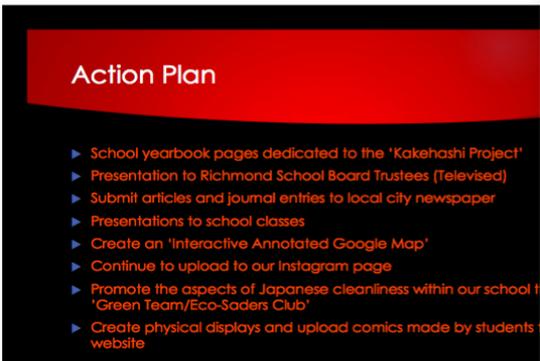
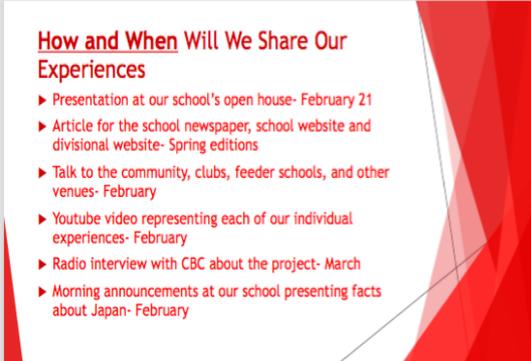
◆ ホストファミリー

英語が話せないけれど彼らととても仲良くなり、こちらも異文化交流ができたことが嬉しく、まるで子供か孫のようになってしまうマジックを体験しました。子供たちも帰りたくないと言わなくなり涙が止まらないくらいだったので感動しました。体調管理など、どのようにしたら良いかと思っていたけれど元気に送り出せたので安心しました。

6. 参加者の対外発信

 <p>Instagram post by kaylareynolds.japan (Nagoya-shi, Aichi, Japan) showing four people (three women in red aprons and one man) in a kitchen. The caption reads: "Smile did not leave my face at TOHO high school this afternoon. Got to meet such amazing and beautiful people beyond excited for them to visit Winnipeg".</p>	 <p>Instagram post by natayokomeshi showing a group of people sitting on the floor with a large amount of candy. The caption reads: "Our home stay in Taiki was so fun! We will miss our host family so much. This was such a unique experience #kakehashi2019".</p>
<p>(グループ A) 学校交流についての発信 (Instagram)</p> <p>今日午後、名古屋の東邦高校では笑みがこぼれっぱなしでした。こんな素敵で可愛らしい人たちと会うことができたのですから。カナダのウイニングペグにある私たちの高校にも来てくれたらもう最高です。</p>	<p>(グループ B) ホームステイについての発信 (Instagram)</p> <p>大紀町でのホームステイはとても楽しいです！ホストファミリーと別れるのがつらくなりそうです。こんな経験は他にありません。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 <p>Action Plan</p> <ul style="list-style-type: none"> School yearbook pages dedicated to the 'Kakehashi Project' Presentation to Richmond School Board Trustees (Televised) Submit articles and journal entries to local city newspaper Presentations to school classes Create an 'Interactive Annotated Google Map' Continue to upload to our Instagram page Promote the aspects of Japanese cleanliness within our school 'Green Team/Eco-Saders Club' Create physical displays and upload comics made by students website 	 <p>How and When Will We Share Our Experiences</p> <ul style="list-style-type: none"> Presentation at our school's open house- February 21 Article for the school newspaper, school website and divisional website- Spring editions Talk to the community, clubs, feeder schools, and other venues- February Youtube video representing each of our individual experiences- February Radio interview with CBC about the project- March Morning announcements at our school presenting facts about Japan- February
<p>アクション・プランの発表（グループ A Henry James Cambie 高校）</p> <p>全ての参加者にとって生涯決して忘れることのできない素晴らしい経験となったカケハシとは「橋」という意味である。今度は、日本を知りその国を理解し、日本と更に良い関係が構築できるように友達・家族・学校・地域そして全世界に向けて SNS で発信していくことが私達の責任である。既に日本で得た最高の経験を発信し続けており、今後も多くの人々が日本を知りその素晴らしさを学び、いつかきっと彼らも日本を訪れたいと思う日が来るほどの影響を私たちが与えていきたい。</p>	<p>アクション・プランの発表（グループ A Vincent Massey 高校）</p> <p>何をどのように実施するか</p> <ul style="list-style-type: none"> オープン・デーで特設スペースを作って発表 学校新聞に日本の記事を掲載 地域の集まり（高齢者や関係校との集い等）で経験共有 各人の経験を YouTube ビデオでアップロード カナダ放送協会によるプロジェクト紹介 生徒会でのプレゼンテーション 地方ラジオ局での日本紹介トーク 高校の朝会での日本紹介アナウンスなど
 <p>ACTION PLAN</p> <p>MILES MACDONELL KAKEHASHI VIDEO PROJECT NAS DAILY STYLE VIDEO</p> <p>WHAT? EVERYTHING!</p> <p>WHY?</p> <p>TO SHOW CASE JAPANESE CULTURE AND BEAUTY, ENCOURAGE TOURISM, CHALLENGE STEREOTYPES</p> <p>WHO?</p> <p>ALL STUDENTS WILL SHARE VIDEO AND PICTURES THROUGH GOOGLE PHOTOS</p> <p>TO WHOM?</p> <p>EVERYONE ON YOUTUBE, POSTED AND SHARED THROUGH GROUP SOCIAL MEDIA ACCOUNTS</p>	 <p>Our Plan</p> <ul style="list-style-type: none"> Video in assembly Yearbook article Present to the board of directors Social media posts (e.g. Instagram stories) Present to Geography of Asia class <p>Social Media</p> <p>Culture History Food</p> <p>UTS UNIVERSITY OF TORONTO SCHOOL</p>
<p>アクション・プランの発表（グループ B Miles Macdonell 高校）</p> <p>日本の文化・美の紹介をする。日本への観光を奨励し、既成概念に挑戦することを目的に、Nas Daily 型のビデオを作成する。一人の生徒がグループのためのビデオを作成・配布するが、一人の生徒に限らず、他の生徒も自分で自分のビデオを作成する。撮った</p>	<p>アクション・プランの発表（グループ B UTS 高校）</p> <p>学校、家族、友人、知っている人とこれから出会う人、インスタグラムのフォロワーを対象に、日本での経験、興味深い活動、食べ物、経験の中から最も楽しんだものを集めてビデオにする。また、日本滞在中に失敗したこと、面白い瞬間をビデオにして観る</p>

写真や映像をクラウド上に保存して、動画編集ソフトを利用し、最終的に母校に発表できるようにする。

人に興味を持ってもらう。さらに、全校生徒 660 人と学校職員が集まる機会にこのビデオを放映し、日本での経験を実際に観てもらう。加えて、学校の年次ブックに紙面を確保し、日本での経験の写真に短い説明をつけて掲載する。そうすることで、より多くの人々の目に触れ、日本での私達の経験を知ってもらう。また、地理の授業でのビデオを流し、学校の理事会に対しても日本での経験がどうだったか、参加者全員が充実した日本滞在をしたかという情報を報告するためにビデオによるプレゼンテーションを行う。